

教員の民間企業研修を開催

～小・中・高等学校の教頭先生が損害保険リテラシーと防災教育の重要性を学ぶ～

日本損害保険協会（会長：船曳 真一郎）は、一般財団法人経済広報センターと連携して、「教員の民間企業研修」を2025年8月20日（水）に損保会館で開催し、神奈川県内の小・中・高等学校の教頭先生28名が参加しました。

本研修は、学校の教員が、企業の事業活動に対する考え方や実務内容、取組みなどについて理解を深め、その体験を子どもたちへの教育や学校運営などに活かしてもらうことを目的に、2018年度から開催しています。

研修では、当協会や損害保険業界の概要、損害保険の仕組み・役割・必要性などの基礎知識に関する講義と、自転車事故への備えに関する動画を視聴し、損害保険リテラシーの理解を深めてもらいました。

また、一般財団法人河川情報センターの鮎川一史 副部長を講師に、ハザードマップを活用しながら水災発生時の個人の防災計画を作成するWebコンテンツ「そんぽデジタル・マイ・タイムライン」を体験するワークショップを行い、生徒一人一人に災害をジブンゴト化させる工夫を話し合いました。

<研修の概要>

第1部「損害保険リテラシーを学ぶ」

【講師：鈴木文明（業務企画部啓発・教育・防災グループ）】

第2部「タイムラインを活用した学校安全対策と防災教育を知る」ワークショップ

【講師：鮎川一史（一般財団法人河川情報センター副部長）】

そんぽデジタル・マイ・タイムライン URL https://sonpo-bosai.jp/sonpo_digital_my_timeline/

<先生方から寄せられた感想>

- ・金融経済教育は、社会人になる前に学んでおきたかった。これから必要になっていく教育だと感じた。
- ・学校の事故は保険で対応していたが、保険が助け合いの仕組みで支払われていることに気づけてよかった。
- ・損保のイメージはよくなかったが、講義を聴いて認識が変わった。損害保険は社会に対して大きな役割を果たしていることを若い世代の先生にも伝えていきたい。
- ・自転車事故の賠償責任が高額になることが自分事になるよう、生徒や先生方にも話していく。
- ・学校で金融経済教育に取り組んでおり、「明るい未来へTRY!」を授業で使うようにしたい。
- ・7月末の津波警報発令の際、学校の対応に苦慮したので、防災教育はとてもタイムリーな内容だった。
- ・学校として、防災教育にどのように取り組んでいくかを考える必要があることを実感した。
- ・防災教育を自分事にするためにも、まずマイ・タイムラインをやってみることが始まりだと思った。
- ・ワークショップを体験して、自分の命は自分で守るという意識を考え直すきっかけになった。
- ・地域の安全マップを作成する際に、ぼうさい探検隊の支援ツールは使いやすいので、利用していきたい。

当協会では引き続き、教育関係者等に有益な情報を提供し、損害保険リテラシーの向上に努めます。



挨拶（田中グループリーダー）



講義の様子（鈴木職員）



ワークショップの様子（鮎川氏）